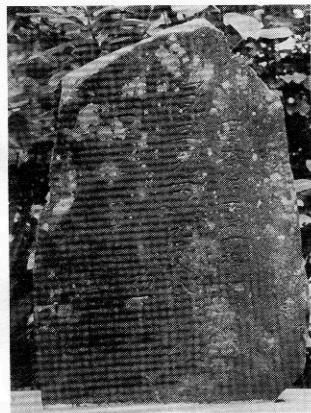


～日置町の歴史探訪 ⑥～



利生山成就院永福寺



山口県指定有形文化財 板碑

「利生山成就院永福寺」

坂本にある利生山成就院永福寺は長徳三年（九九七年）真言宗寺院として創設された。然し五百年有余年後の元喜二年（一五七一年）に廃寺となっている。爾来 薬師堂（小堂）の建立等幾多の変遷を経て今日に至っている。「利成山再興記」など僅かな史料が「防長寺社由来」に残っている。それに依れば按るに創設後の一時期に八幡宮の社坊であったとも考えられるが、往古は山麓に六坊あって蓮華坊、坂本坊、南坊、西坊、下坊、福寿坊、末寺五十三ヶ寺という七堂伽藍の霊地とし繁栄した地方の名刹であったと推測される。また、毛利八ヶ国分限帳に十三石利成山と記されている。廃寺の後、幾星霜を経ても村人の厚き信仰は絶えることはなく元文五年（一七四〇年）に鑄た洪鐘の銘に（銘日の前文は省略）次のように彫つてある。

阿訶音さす日置の里の鐘
とはば南無阿彌陀佛と

人はこたえよ

一日を終えた黄昏に遠くまで響く鐘の音は村人の安泰と豊稔を願う

更に牛馬の息災のしるしでもあつたと云う。当時日置盆地から伊上地方まで届いたであろう。今から二六〇年前の天保年間に棚田の畦道の崩れから銅器の経筒が発見された。それに「寛治七年（一〇九三年）十一月二十日雀部重吉とあり約七四〇年間地中に埋もれていたことになるが、現在香川の金比羅宮の所蔵となっている。如何なる経緯で香川に渡ったのか謎であつて、又雀部重吉は鋳物師のようである。経筒を埋納し経塚を立て或いは一字一石塔は各地で見ることが出来るが、平安時代に末法思想を根底しており、後世の滅法時に弥勒の出現を願つて如法経を土中に埋める風潮からである。

現在の小堂の向拝口の石段横に板碑（卒塔婆ともいう）がある。これは県文化財指定であつて県下で最古のものと云つてよい。大島郡東和町浄西寺の卒塔婆は建仁二年建立（一一二〇二年）が最古。板碑には、

百基為願所御祈禱也

寛喜元年紀九月十八日

一千百勤進 物了守園

とあり、「百基願いのための御祈禱の所なり」というのであるが、寛喜元年（一一二九年）に自然石に刻まれた碑文の意の百基とは卒塔婆なのか、一千百は経文か結縁者の数なのか、物了（部）守園（国）は地頭職も勤めた実力者である。利成山永福寺はこのように平安時代の中期から戦国時代末期まで繁栄し人々の心を安らげて来たのであるが、惜しいかな退廃し殆ど田畑と化してしまった。現在の小字（穂の木ともいう）に坂本地域から中村、古市に至るまでこの利成山に係る地名が多く残っている所を見ても如何に大伽藍であつたか想像されるのである。又この地方の各寺院の中にはこの利成山に係のあつた寺もある。現在の堂は町内の篤志家に寄つて建立されているが、地元の人達の信仰は今も続き常に御佛飯を捧げ線香の香が絶えないという。利成山の堂の前に立つて日置盆地を見渡しながら昔日を偲ぶこともよい。

執筆 岡藤 正作